



# 魔

瀬名秀明

むらかわみちお=画

# 法





# 瀬名秀明

SENA, Hideaki

1968年、静岡県生まれ。作家。1995年『パラサイト・イヴ』（角川書店）で第2回日本ホラー小説大賞を受賞しデビュー。『BRAIN VALLEY』（角川書店、1997年）では第19回日本SF大賞受賞。『デカルトの密室』（新潮社、2005年）、『第九の日——The Tragedy of Joy』（光文社、2006年）など、新時代を開拓する魅力的なテーマを持つ作品を発表し、また『ロボット21世紀』（文春新書、2001年）、『インフルエンザ21世紀』（鈴木康夫監修、文春新書、2009年）などノンフィクション領域でも活躍する。

瀬名秀明の博物館 <http://www.senahideaki.com/>



ときは一九世紀半ば、手品師になりたいと願うひとりの若者が、大魔術師アラカザールにその極意を尋ねた。するとアラカザールは自慢の髭を撫でながらいった。

「来週までにトランプの選ばせ方を十種類考えてこい」

「ですが、アラカザール師」と若者は少しむくれ気味にいった。「どうやって相手のカードを見つけるか、私はまだ知らないのです」

「わしを信じよ」と大魔術師アラカザールは諭した。「もし秘密の方法を教えたら、おまえさんはきつとひどくがっかりするだろう。そのくらいカードを見つける方法は単純で、おまえさんでもほんの一分で憶えることができる。だから自分はみんなより賢いんじゃないかと勘違いしてしまうくらいじゃ。さあ、まずはわしのいうことを聞け、秘密を知らないままではなんと味わい深く、すばらしいことか。それこそが結局、われら魔術師が古くから人々に与え続けてきた「驚き」という体験なんじゃよ。よもやおまえさん、そのことを忘れたわけじゃあるまいな？」



授業を終えてカードを片づけていたところへ声をかけられ、佐倉理央りおは顔を上げた。受講生の本多洋平が片手を小さく上げて挨拶しながら立っていた。

「アラカザールの教えについて何か？」

と、理央は片づけを進めながら笑みを返す。本多は肩を竦めた。

「まったく、途中まで実在の人物だと信じちゃいましたよ。ぼくは今回初めて習うんだから、そういう素人もいるって手加減してくれなきゃ」

大魔術師アラカザールとは子ども向けのマジック教本に登場する有名なキャラクターだが、彼の言葉は子どもよりむしろ世間に馴れ始めたアマチュアマジシャンにこそ深みを持って受け止められる教訓に満ちており、いまなお世界中のマジック愛好家から師と仰がれている憎めない剽軽者だ。三年前から理央はこのカルチャースクールの授業を先輩マジシャンから引き継いでいるが、毎年一度だけこのアラカザールの教えを引用し、受講生に宿題を課す。この教えは効果てきめん観面の魔法を教室にもたらしてくれる。その次から出席者の数が半減するのだ。実際、今回も宿題のことを話したとき、ほとんどの受講生が戸惑いや失望の表情を浮かべるのがわかった。理央は知らぬふりをして話を押し通したものの、前回までのレッスンでは終了後に理央のもとへ集まりサインを所望してい

た人たちが、今回は無言で帰り支度をそそくさと済ませ、退室していった。見渡すと教室に残っているのは理央たちふたりだけになっていた。

「先生って呼ぶのはやめてよ」

「いや、ここでは理央先生ですよ。ぼくのほうが教わっているんですから」

「十年前に聞いてみたかった台詞」

片づけを終えて、ふたりで教室を出る。レッスン初日後の懇親会で自己申告を受けるまで、迂闊にも本多が受講していることに気づかなかつた。理央は学生のころから縁あって地元テレビ局の週末の情報番組でテーブルマジックを披露しており、本多はそのとき同じ番組に出演していた学生アシスタントのひとりだった。本多の担当はスポーツニュースで、理央より学年はひとつ下だったが、気が合って休憩時間によく雑談していたのである。しかし番組の改編と共に自然と疎遠になっていたのだ。七年ぶりに再会した本多は頭髮が少し薄れた妻子持ちの会社員になっていた。

本多は左利きで、レッスンではカードの取り扱いに難儀していた。スポーツで有利に立てる左利きは、カードマジックを演ずる場合、圧倒的に不利なのである。多くの人は気づかないが、トランプの絵柄は右利き用に特化されているためだ。左上に位置するマークや数字は、右利きの人間が両手の中でトランプを扇状に開いたとき見えやすいように

できている。左利きの人が開くとカードの端は真っ白になってしまい、カードをすばやく確認することが難しい。

それでもなんとか自分の利き手と折り合いをつけて、本多はマジックを楽しんでいる様子だった。

「抽選が当たってラッキーだったな。この講座、倍率が高いから」

「どうしてマジックを？」

「とくに理由があるわけじゃないです。まあ、あのころから一度やってみたかったのかな。スタジオで見えていつも惚れ惚れしていたから」

「ありがとう」

「ええ——それより」

本多は躊躇うような口調になった。カルチャーセンターのロビーに自分たちしかいないことを確かめる。

「かけい 笥さんのこと、もう知っていますか」

理央は立ち止まり、相手の顔を見つめた。

笥伊知郎い ちろうのことだと気づくまで、少し時間がかかった。

その空白の数秒は理央にとって意外だった。笥という名字の人を何人も知っているわ



けではなかったのだから。七年の歳月でその名はいつの間にかカケイという音の配列になつていたのであった。

「マジック協会国際連合以来ですよね」

「何があったの」

「そうか、理央さん、まだ知らないのか」

本多の呼びかけは理央さんに戻っていた。学生るときに深く考えもせずテレビに出て以来、理央は本名のままマジシヤンの活動が続けてきた。寛もあのころは同じく学生であり、また修士課程を終えてからは上京してアルバイトをしながら練習を続ける一介のアマチュアであり、むろん大会に出場するときも本名だった。

FISM<sup>フィズム</sup>は世界中のマジシヤンの登竜門として知られる大会だ。寛は二五歳で出場し、マニピュレーション部門で日本初の一位を獲得した。今日まで日本人がFISMでグラプリを獲ったことはない。もうひとり部門一位の日本人が最近になって現れたが、寛の記録が日本人初の快挙であったことはいまも変わらない。

寛は日本のマジック業界を沸き立たせたその翌日、欧州から帰国する途上で事件に巻き込まれた。空港でファンと称する若者が大きな花束を持って近づいてきた。寛はいつもの笑顔で若者に応じ、求められるままにサインをして、花束を受け取り、記念写真に

収まった。そして若者がその場から立ち去った直後、花束の中で爆弾が作動した。筧に嫉妬したアマチュアの凶行だった。彼の両腕は千切り飛ばされ、腕の欠片と共にすぐさま病院へ運ばれたが意識不明の重体となった。医師たちは腕をつなげようと懸命な努力をしたという。しかし理央たちが現地に到着したとき、最初の手術を終えた彼は姿を消していた。

「二位になったときには、番組にも出てもらおうなんて話していました」

本多の言葉で思い出した。事件が起こるほんの六時間前、理央たちはそんなことを確かに話して、この日本の隅っこで浮かれていた。

「そうね、そうだった」

そして本多はいった。

「ぼくも昨夜、テレビで知りました。週末に筧さんの特番があるんです。両腕を義肢にしたサイボーグマジシャンのデビューだと」



その週末はバーの当番が入っていた。

東北新幹線で東京から一時間四〇分、この地方都市には駅の東側に一軒だけ、マジックを客に見せるバーがある。理央は当時、大学の奇術部に所属しながらここでアルバイト



「ためし読み」は、ここまで!

本作品をふくむ「AiR[エア]」正式版のご購入は、以下をご参照ください。

(※iTunesが起動します。定価600円・税込)



「AiR[エア]」 iPhone/iPad両対応版 (iPhoneに最適化したバージョン)

<http://itunes.apple.com/jp/app/id376758025?mt=8>



「AiR[エア]」HD iPad版 (iPadに最適化したバージョン)

<http://itunes.apple.com/jp/app/id376752505?mt=8>

電子書籍「AiR[エア]」公式サイト

<http://electricbook.co.jp/>

### ●電子書籍「AiR[エア]」正式版概要

巻頭グラフ◎異彩の現代美術家

「横山裕一、豊潤の世界」

小説◎傑作と最先端が融合する!

「デビルマン魔王再誕」永井豪=原作 / 桜坂洋=小説 / 籬護賊=画

評論◎文理融合の新領域からの提言

「平安デジャブ——抱擁国家、日本の未来」前野隆司 (慶應義塾大学大学院SDM研究科教授)

小説◎科学が到達した新たな世界

「魔法」瀬名秀明=文 / むらかわみちお=画

エッセイ◎デジタルでも人はものを食べる

「背徳の食卓～“やっちゃいました”と言ってみたくて～」岡田有花 (ITmedia News)=文・絵

ツイート◎電源を落としたら消えてしまう物語

「空から降るツイート」北川悦吏子=文

対談◎歴史学者が虚構から現実を照射

「歴史、政治体制、ロボットアニメ」本郷和人 (東京大学史料編纂所准教授) × 堀田純司

対談◎出版界の裏の裏まで知り尽くす二人

「電子書籍のすぐ先の未来」佐々木俊尚 × 幸森軍也 (ダイナミックプロダクション)

評論◎電子書籍だから語られる本当

「『電子書籍が儲からない』は嘘である」中村祐介 (エヌプラス代表)

エッセイ◎漫画界の鬼才登場!

「IT革命と相撲」カレー沢薫=文・漫画

ノンフィクション◎中年漂流!

「1969 バブル世代に生まれて」堀田純司